

『不空羂索神變真言經』「護摩安穩品」所説の護摩儀軌

木 村 秀 明

1 はじめに 『不空羂索神變真言經』は、經題の示す通り不空羂索觀音について説く經典で、大小約 60 種ほどの、色々な儀軌から構成されている。『大日經』以前に成立したと推定されている初期密教經典で、709 年頃に菩提流志によって漢訳された。チベット語訳が存在し、漢訳とあわせて、従来研究がなされてきたが、最近この梵文の貝葉写本が、大正大学綜合仏教研究所の調査隊により、中国で発見され、中国民俗図書館と共同出版という形式で、大正大学綜合仏教研究所より、影印版の形で出版された。¹⁾

この出版に伴い、綜合仏教研究所の研究会において、梵文写本の共同研究が進行中で、蔵訳や漢訳と対照しながら写本をローマ字に転写した翻刻を Transcription として順次公刊している。²⁾ 筆者もこの研究に参加し、本稿は筆者の担当した部分に含まれていた「護摩儀軌」について、その概要を報告するものである。

2 護摩安穩品について 『不空羂索神變真言經』は、漢訳で 30 卷、梵文貝葉で 162 葉、という非常に大きな分量を持ち、不空羂索の関連資料のなかでも最大にして最も重要な位置をしめる基本的文献であり、長らくその梵文原典の発見が待望されていた。今回報告する「護摩安穩品」³⁾ は、貝葉で裏表 1 葉の分量しかなく、全体のほんの一部にすぎない。当然『不空羂索神變真言經』には、この「護摩安穩品」以外にも護摩儀軌が多数説かれている。よって、「護摩安穩品」だけで、『不空羂索神變真言經』の護摩儀軌のすべてを語ることはできない。しかし、この文献はなにぶんにも大部であり、限られた部分ではあっても、「護摩安穩品」の護摩儀軌について整理し、全体像の解明の基礎にしたいと思う。

3 梵文写本について さて、この梵文写本は、貝葉に端正な字体で丁寧に書かれており、単語の形も一見古典的なサンスクリットであるが、連声は不正確であり、性・数・格も一致しないという大変扱いの難しいテキストである。たとえば、

a 語幹の中性・単数・対格或いは主格の -am の形の名詞・形容詞・分詞等を多数連ねた後、最後の単語だけが本来のものとおぼしき格をとり、さらにこのアナスヴァーラもテキスト全体に渡って頻繁に脱落するなど、非常に読みにくいテキストである。さいわい、蔵訳と非常によく対応するので、蔵訳と合わせると何とか言おうとしている意味が理解できるという状態であり、正規のサンスクリットに直そうとすると、校訂というよりは、ほとんど書き直しという状態になってしまう。そこで、先般公表した Transcription を基にして、当品について校訂テキストの形に多少なりとも近づけた修正テキストを作成し、蔵訳を参照した和訳を付して、公表する予定である。⁴⁾

4 内容・構成 この「護摩安穩品」には、比較的短い同じような護摩儀軌が 28 ほど説かれている。⁵⁾ これらの護摩儀軌は、いずれも比較的短いもので、同じような内容が繰り返し説かれている。そこで、各儀軌に説かれる護摩儀礼の主要な要素を選んで、表を作製し、次頁以降に「護摩安穩品」護摩儀軌一覧として挿入した。この一覧表では、左側に、1 から 28 までの儀軌ナンバーを付した。ただし、28 という数え方は、もともとは同一の儀軌であっても、護摩儀礼の執行内容に少しでも変化があれば、独立の儀軌として、厳密に数えた。明らかに本来は同一儀軌と思われるものには、一覧表の左側に縦線を引いて関連性を示した。

一覧表の左から 2 番目の種類の覧には、護摩法の分類を示した。なお、この護摩の分類について、「護摩安穩品」の冒頭には、これから説こうとする護摩儀軌の名前を、梵本と蔵訳では 8 種⁶⁾、漢訳は 4 種⁷⁾ 列挙している。しかし、これらの名称は、その後説かれる本文中の 28 の儀軌とは連動しておらず、これをもって本文の護摩儀軌を分類することができない。そこで、護摩儀軌一覧表では、とり敢えず息災・増益・降伏・敬愛・鉤召という一般的な五種法を用いて分類した。

次に、一覧表では、壇木・乳木・炉に投入する供物・その回数・誦する真言の種類や回数・護摩の目的や効果・および、護摩儀礼を行う日時・場所やその他護摩に付属する儀礼など、重要と思われる要素を、梵本・蔵訳・漢訳の 3 本ごとに抜き出して整理し表記した。

これらの項目の中で、まず原典では壇木と乳木の区別がなされていない。「焼木」と訳した、samidh あるいは samidha が壇木・乳木に相当する。⁸⁾ 乳木についても、火に投入する供物との区別が必ずしも明確なわけではない。香木と香木から作られた香の区別も難しい。その他、単純に分類・整理しづらい事項が少な

No.	種類	壇木	乳木	木	供物	施回數	真言の誦持	目的・効果	日時・場所・付屬儀札等
8	Skt.	bilva(吉祥果)の木	bilvaの花	ghṛta(酥油), madhu(蜜)	1008	1008回; 念怒明王21・108回;	宝を捧ぐ業又女の縛召・使役;	黒月14日、星夜斎戒、海に注ぐ河岸	
	Tib.	འོལ་ལོལ་ལོལ་ལོལ་(bil ba)の木	འོལ་(酥油), ལོལ་(蜜)		"	"	"	"	
	Ch.	木瓜木	木瓜花	酥	"	"	眞言、念怒王眞言21・108回;	" ; 黒月八日、晝夜不食、河岸邊	
9	Skt.	sumana(肉冠花)の花	padmaの葉	sarṣapa, ghṛta	1008	1008回;	聖宝の取得;	施食供養、芥子水(滿21回)で地を打つ、	黒月14日、三宝へ半分供養
	Tib.	མེམ་མེམ་(肉冠花)の花	པ་དམ་མེམ་(蓮花)の葉	མེམ་མེམ་, མེམ་	"	"	"	地に落す、	"
	Ch.	蘇曼那花	蓮花荷葉	白芥子, 酥	"	"	"	白芥子水を加時し地に1008遍撒す	"
10	Skt.	vibhitaka	tila(胡麻)	taṇḍula(米粒), ghṛta	1008	1008	王や財物を持つもの等が從願になる		
	Tib.	བེམ་མེམ་(vibhitaka)	ཏིལ་ཏིལ་(tila)	རྩ་མེམ་མེམ་(米粒), མེམ་	"	"	"		
	Ch.		稻穀糠		108	108	見跡外還歡喜供養		
11	Skt.		padmaの焼木; gaurasarsapa(白芥子), campakaの花	ghṛta	1008	1008回;	園上の占儀、男女と童子が從願になる	(縁起)	
	Tib.		པ་དམ་མེམ་(蓮花)の焼木; ལེམ་མེམ་(白芥子)	མེམ་མེམ་(酥)	"	"	"	"	
	Ch.		欠	欠	"	"	"	"	
12	Skt.		śalīṣa(稲のもみ), salavana(蠟を持つもの)		91	91	四姓の世間が從願になる	(縁起)	
	Tib.		ལེམ་མེམ་(稲のもみ), ལེམ་མེམ་(蠟を持つもの)		"	"	"	"	
	Ch.		欠	欠	"	"	"	"	
13	Skt.		arka(アルカ)の花, madhu(蜜), ghṛta		1008	1008	毎日金貨百枚を得る; 観自在供養		
	Tib.	ལེམ་མེམ་ལེམ་མེམ་(arka)の木	ལེམ་མེམ་(蜜), མེམ་མེམ་		108	64日	金貨百枚を得る;	"	
	Ch.	蓮花	蜜, 酥	白檀檀香	1008	1008	夜夜當得金銀百文; 以諸花香敷設獻我、	白月15日に高所	
14	Skt.		palāśaの焼木, lāja(煎り米)		1000	1000	千の黄金を得る;	三宝へ供養、分配、	
	Tib.		པལ་ལེམ་མེམ་(pa la śa)の焼木, ལེམ་མེམ་(煎り米)		1008	1008	百千の黄金を得る;	"	
	Ch.	波羅奢木、木槿木、柏木	稻穀花	沈水香, 白栴檀香, 酥, 蜜	10000	10000	得金銀兩;	三宝等へ供養、布施貧窮孤老病人	
15	Skt.		水中より童子を縛召して宝を得る、満月15日、一星夜斎戒、川の中、真言108回、芥子を21回誦す、	念怒尊像を印く、	半分を三室に供養、	観自在供養			
	Tib.		"	"	"	念怒尊を沈める	"		
	Ch.		"	"	"	観怒加持白芥子 打水一百八遍	3分割し観自在と三室、自分、黄下人に分配		

No.	種語	檀木	乳木	供物	焼香回数	真言の簡特	目的・効果	日時・場所・付随儀礼等
23	増益	Skt. pātāṅga(紫檀)	arkapattra(アルカの葉)	ghṛta		附隨の門を開く=消磨成就法(bilasādhana)		
		Tib. a rka の木	a rka の葉	酥		"	=消磨成就法(འཕྲོ་ལྷོ་ལྷོ་)	
		Ch. 蘇枋木	蘇	酥	1008	頌(徹羅・婆叉娘)門自開入無障礙		
24	増益	Skt. kumuda(白蓮華)	tagara(タガラ香)	sarsapa(芥子), ghṛta		森の入り口を開く、葉草が見つかる		
		Tib. ཀུའོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	ཀུའོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	酥		"	"	
		Ch. 栴勿頭花	多頭蓮華	白芥子、酥	1008	其諸藥精現身而來任所採取		
25	鈎召	Skt. palāśa の木	marica(胡椒)		1008	帝釈・梵天・ヴィシユス・大自在天等が顯現する		
		Tib. རྩ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	胡椒	酥	"	"	"	大自在天・日天が顯現する
		Ch. 木瓜木(=bilva?)	胡椒	胡椒	"	其大梵天帝釋天那羅延天大自在天現身護念、當見之時而乞請願悉皆滿足。		
26	増益	Skt. suvarṇapuspā(金華)	karnikāra(金華)	utpala(草蓮華), ghṛta	1008	月天と日天が顯現し贈物を与える		
		Tib. ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	(sumanas)の花	ka rñi kã raの花, u tpa la, 酥	"	"	"	
		Ch. 蘇曼那花	樹肥迦羅花	優鉢羅花、酥	"	日天と月天が顯現し大神通を与える		
27	敬愛	Skt. rājāvṛkṣa(栴梨)	śati(茴香)の花, śatāvārī(天門冬), candana(栴檀), sarsapa(芥子), pattāṅga(紫檀), yava(大麦), ghṛta		21	大王妃の敬愛(vasīkaraṇa)が生じ、後宮の眷属を伴うものたちが從順になる		
		Tib. ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	(= aśvattha, 菩提樹)	ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	21	從順になる	王妃の眷属を伴うものたちが從順になる	
		Ch. 白栴木	茴香子、天門冬、蘇枋木、白栴檀香木、白芥子、大麥、牛酥	酥		得利帝利王族從悉除障苦		
28	降伏	Skt. taṇḍula(米粒)	sarsapa(芥子), lavaṅga(雄)			鬼病魔と兼又と羅刹の調伏(nigraha)		
		Tib. ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་ལྷོ་	稗米、白芥子、薑根			鬼病魔と兼又と羅刹の調伏(འདྲོ་ལྷོ་)		
		Ch. 稗米、白芥子、薑根			1000	得諸樂又羅刹懼護願伏		

(44) 『不空羂索神變真言經』「護摩安穩品」所説の護摩儀軌(木村)

らざある。

5 おわりに 以上のように、当品の護摩儀礼の内容を整理し、一覧表の形にした。多少強引に整理した部分もあるが、当経は、梵・藏・漢の3本がそろった数少ない貴重な初期密教の文献であり、さらに護摩儀礼はかなり後期の密教經典に至るまで幅広く説かれている儀礼であるので、今回のような護摩儀軌の整理が密教文献の基礎研究に多少なりとも貢献できることを期待するものである。

- 1) 『不空羂索神變真言經梵文写本影印版』大正大学綜合仏教研究所, 1997年。
- 2) 漢訳では、冒頭部分に「護摩安穩品第十」と品名が提示されるが、梵本では文末に“ahutividhi”という尾題が記されており、この ahuti は āhuti すなわち「火の中へ施物を投入すること」であり、homa と同義語であると思われる。homa の「護摩」にたいして、とりあえず「獻供」という訳語を当てた。藏訳は、sbyin sreg gi cho ga として、本文中に出てくる homavidhi と同じ訳語を使っている。漢訳の「護摩安穩品」の「護摩」もおそらく āhuti の訳と思われる。したがって、「ahutividhi」の訳を採用して「獻供儀軌品」としてもよかったが、ここでは、漢訳に従って一応「護摩安穩品」とした。
- 3) 「Transcribed Sanskrit Text of the Amoghapāśakalparāja Part I ~ IV」密教聖典研究会、『大正大学綜合仏教研究所年報』20 ~ 23号, 1998 ~ 2001。
- 4) 「護摩安穩品」の直後の「パタ造立儀則品」については、既に公表済みである。木村秀明、『不空羂索神變真言經』「パタ造立儀則品」に説かれる補陀落山図、『豊山学報』第44号, 2001年。
- 5) ただし、15番目の儀軌は実質的な護摩の儀礼を含まず護摩儀軌とは言えない。また、漢訳には11番・12番・21番・22番の4つの儀軌が説かれていない。したがって、厳密に言えば、「護摩安穩品」には、梵本および藏訳が27本、漢訳では23本の護摩儀軌と、さらに護摩に類似した儀軌が各1本説かれている。
- 6) ① śubha (善淨) ② sānti (息災) ③ paṣṭika (増益) ④ abhicāra (降伏) ⑤ rakṣā (守護) ⑥ sarvavyādhihara (一切の病気の除去) ⑦ kākhordanāśana (蠱道の排除) ⑧ vaśikaraṇa (敬愛)
- 7) ①大安隱, ②降伏, ③擁護, ④除諸災障
- 8) 例えば、儀軌 No.1 の息災護摩において、「アルカの木の焼木を用いて火を燃やした後に、芥子油を塗った蓮華(の茎)を火に獻供するべし。」などとあった場合に、アルカの木の焼木を壇木に、蓮華の茎を乳木にあえて区分した。

〈キーワード〉『不空羂索神變真言經』, *Amoghapāśakalparāja*, āhutividhi, homavidhi, 護摩

(大正大学助教授)